



2013年12月3日

世界基金、日本の力強い貢献を歓迎

ワシントンー世界エイズ・結核・マラリア対策基金は、本日、日本政府が、2014年以降当面の間に8億ドルを拠出すると発表したことを心より歓迎します。これは日本の世界基金に対する力強く一貫した支援を裏付けるものです。

この拠出は、世界基金第4次増資会合にて、総理特使である木原誠二外務大臣政務官によって表明されます。本誓約は、先ほど（日本時間）12月3日の夕刻に安倍晋三内閣総理大臣と米国のジョー・バイデン副大統領の出席のもとに東京で行われた共同記者会見で公表されました。

「日本政府がグローバル・ヘルス分野で指導的な役割をさらに強化し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のためにたゆまぬ努力を続けていることに、心から祝意を表します」とナフシア・ムボイ世界基金理事会議長は述べています。「世界基金は新しい資金供与モデルのもとでより統合的・包括的なアプローチに移行しており、そこでは保健システム強化が大事なコンポーネントとなっています。」

世界基金が設立されてから11年間で日本は総額18.6億ドルを三大感染症対策のために拠出し、主要ドナー国の一つとなっています。

世界基金のマーク・ダイブル事務局長は「日本は、世界基金の創設以来、力強い支援者でありパートナーであり続けてきました」と述べ、「三大感染症との闘いにおける日本の役割は他に模範となるべきものであり、日本の人々による継続的な支援に心から感謝します」と語っています。

2000年、沖縄に集ったG8のリーダーたちは、エイズ、結核、マラリア対策のための“軍資金”が必要であると決意を新たにしました。この呼びかけにより、世界基金を設立するという構想が生まれました。その時点から、そして2002年に世界基金が正式に設立されてからも、日本と世界基金は共通目的に向かって共に歩む緊密なパートナーであり続けています。

###

Andrew Hurst

Media Manager

Mobile: +41796616807

E-mail: andrew.hurst@theglobalfund.org